

雪がた

—— 豊科病院だより ——



豊科病院広報誌
平成31年 1月10日 発行
発行者
豊科病院広報文化委員会
〒399-8205
長野県安曇野市豊科5777-1
Tel:0263-72-8400
URL <http://www.shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。



豊科病院 開院100周年 記念号 ①

豊科病院創立百周年に寄せて 社会医療法人 城西医療財団 理事長・総長 関健

豊科病院が今月、創立百周年を迎えた。創設は大正8年1月で、創設者は私の祖父 関 忠英である。当初は、現在地より東方約100メートルの地で、養精堂 関療院分院としての開設であった。現在



地は大正10年までは南安曇郡役所であった場所で、地域の要望によりその建物を譲り受けて移転し、名称も豊科療院とした。忠英は、大阪高等医学校を卒業して医師となり、和歌山県の防疫官を務める傍ら、母校の病理細菌学教室で研究生活を行っていた。大正元年12月養父 関 查三郎が病に倒れ死亡したため、父業を継ぐため官職を辞して故郷に帰ることを決意し辞表を提出したが、後任の人選などで手間取り、帰郷できたのは大正3年5月のことであった。爾来、東筑摩郡神林村の養精堂関療院 創立明治19年11月11日 関 查三郎／当法人の創立記念日）を継いで、地方の一内科医として多忙な日々を送ることとなった。東奔西走、南船北馬の活躍であったが、豊科療院の開業によってその多忙ぶりは加速された。

大正11年母校大阪医科大学 元大阪高等医学校（眼科学教室の助教授中村文平先生 後の大阪大学医学部教授／松本市の中村眼科創設者）に誘われ、欧米留学を決意し、大正11年2月から12年11月まで留学した。神林の関療院は大和き

よし女医 大正11年～12年に委託し、豊科療院は関守男義弟 関 查三郎 長男／大正10年～15年に委託した。この留学中、忠英は、ドイツでの研究により数編の論文を発表することができ、帰国後母校大阪医科大学 現大阪大学(医学部)に提出し、大正14年2月27日医学博士の学位を授与された。当時、医学博士は長野県下には上田市に1名いたのみであったという。

忠英は、大正13年10月松本市の現在地 城西町1丁目38番地)に旧豊科関療院の建物を移築し関療院を開設、神林の診療所は閉鎖し、宮田医師に譲った。忠英は、午前の松本での診療と、午後の豊科での診療という二足の草鞋を履くこととなり、ますます多忙を極めた。

関守男は、若くして命を落とした。その後、豊科病院の診療に従事した医師は、以下の人々の記録が残っている。萩原 六郎 大正15年9月～昭和2年3月)、安藤 源

太郎 昭和10年3月～12月)、小喜多 晴雄 忠英の妻もとの実弟／昭和14年1月～15年頃)、その後は忠英一人で診療していたが、昭和19年には、関 俊子 忠英長男 守の妻／私の母)が時に代診し、20年には倉田 みどり女医が勤務するようになった。

城西 豊科両病院は、大東亜戦争の戦中を生き延び、昭和26年4月1日付けをもつて医療法人城西医療財団を設立し、その傘下に収まった。豊科療院を豊科診療所として医療法人に組み込んだのは昭和28年であり、昭和31年に豊科病院と改称 精神科22床)し、関 俊子が院長に就任した。昭和35年に守が城西病院長に就任すると同時に俊子が城西病院副院長に就き、豊科病院長に忠英が返り咲き、副院長に徳武 龍次が就き、後に大飼 剛が就いた。

忠英は、昭和41年3月10日逝去した。豊科病院長には俊子が就き、後に高山 紀夫 守の長女眞理子の夫)が副院長に就き、他に大沢 誠、篠崎 孝、武井 昭らの精神科医師がその

後の豊科病院の精神科医療を支えた。

平成3年4月に豊科病院併設型老人保健施設として安曇野メディアアを開設し、関 俊子が初代施設長に就任した。それに伴い豊科病院長に高山 紀夫が就任 平成3年4月～8年3月)した。翌平成4年11月には、精神障害者グループホーム第一飛鳥荘および第二飛鳥荘を開設した。平成7年1月、精神障害者 生活訓練施設(援護寮)アルプスドミトリを開設した。平成8年4月に、関 東和が豊科病院長に就任 平成8年4月～18年10月)し、高山 紀夫は安曇野メディアア施設長に就任 平成8年4月～10年10月)し、俊子は退任した。平成14年3月ミサトピア小倉病院開設し、豊科病院の精神科病床は140床になった(一般科18床は変わらず)。関 東和院長は平成18年10月7日に逝去した。

平成18年12月には、五味 洸満 徳が病院長に就任し、今日に至っている。また安曇野メディアアの管理者

を兼務している。五味洸院長は極めて責任感が強く、診療を第一と考え、多くの患者を受け持っている。これを支えるのが、西里 吉昭 医師と中澤 知遠医師である。平成25年5月には、自立訓練事業所アルプスホームを新築開設した。

豊科病院の今後は、地域の中での役割、疾病構造の変化にどう対応するかが課題である。新たな百年に向け皆で知恵を絞って対応してもらいたい。



創業者と歴代の院長



院長代行 関 守男



初代院長 関 忠英



創業者 関 查三郎



五代 五味渚 満徳



四代 関 東和



三代 高山 紀夫



二代 関 俊子

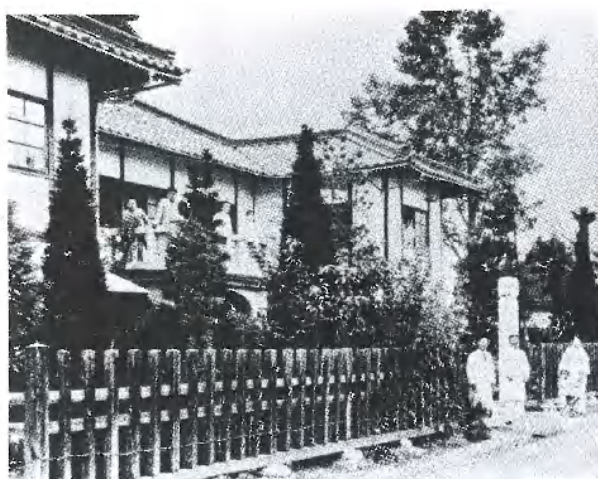
写真で振り返る100年



関 守男 院長代行(左から2人目)と職員
大正11年



開院翌年 大正9年 (現在地より東へ100mの地)



昭和10年夏 (現在も当院の駐車場の
入り口に残る石柱(門)が写っている)



関 忠英院長が欧米留学(大正11~12年)の出発時、
松本駅前で地元の方や職員らが見送る。



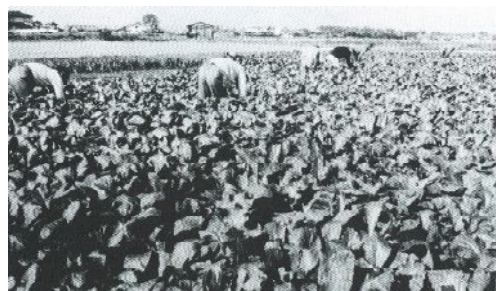
関 東和 病院長(中央)と職員 平成13年



豊科療院玄関前 昭和10年頃



豊科病院と安曇野メディア(右上) 平成10年頃



北農場 昭和60年



診察風景 関 俊子 病院長

外来 医師担当表

平成31年 1月10日現在

	月	火	水	木	金	土
精神科	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしざと よしあき 西里 吉昭 医師	ごみぶち みつなり 五味洸 満徳 医師	おかざき たかし 岡崎 隆司 医師 ※診察時間 9:30~	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	ごみぶち みつなり 五味洸 満徳 医師
内科	いわさ たけひこ 岩浅 武彦 医師	休 診	休 診	まちだ りょうすけ 町田 良亮 医師	休 診	休 診
◎ 受付時間 午前 8:00~午前 12:00 ◎ 診療時間 午前 9:00~終了まで ※ 午後は全科 休診 となります。 ※ 日曜・祝日は全科 休診 となります。						
※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。 お問い合わせ先 電話 0263-72-8400						

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。
また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。